

クリ「ぼろたん」は前年結果した太い枝を中心に残し せん定すると収量が安定する

クリ「ぼろたん」は、枝の基部径が7mm、先端部径が4mmより太いと雌花数が多く収量が多くなります。また、前年結果枝は、発育枝より雌花数が多く着実率も高いので、前年結果した太い枝を中心に残してせん定することで安定栽培が可能です。

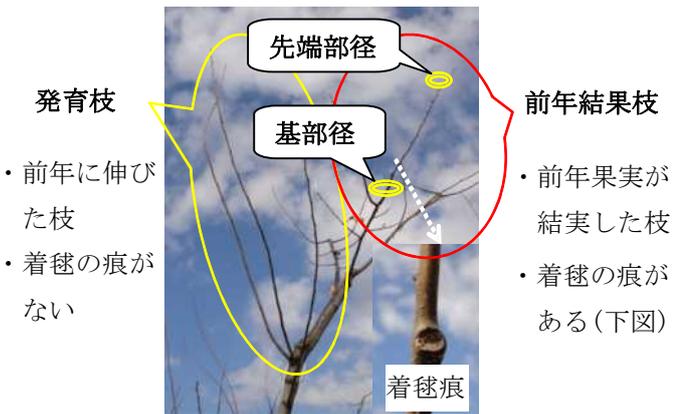


図1 枝の種類と太さ

枝の種類、枝の太さを見極めます

枝の種類には、前年結実し着実痕のある前年結果枝と、前年に伸びた着実痕のない発育枝があります。

枝の基部から5cm付近の太さ（基部径）、枝の先から3芽と4芽の間の太さ（先端部径）を観察します（図1）。

枝は太いほうが雌花数も多く、総収量も多くなります

結果母枝1本当たりの雌花数は、結果母枝の基部径や先端部径が太いと多くなります。結果母枝の種類では、前年結果枝と発育枝ではほぼ同様の傾向です（図2）。

結果母枝基部径7mm以上は7mm未満と比べ、先端部径4mm以上は4mm未満と比べて、結果母枝当たりの雌花数および収量が多くなります。また、前年結果枝は発育枝より雌花数が多く、着実率が高くなります（データ略）。

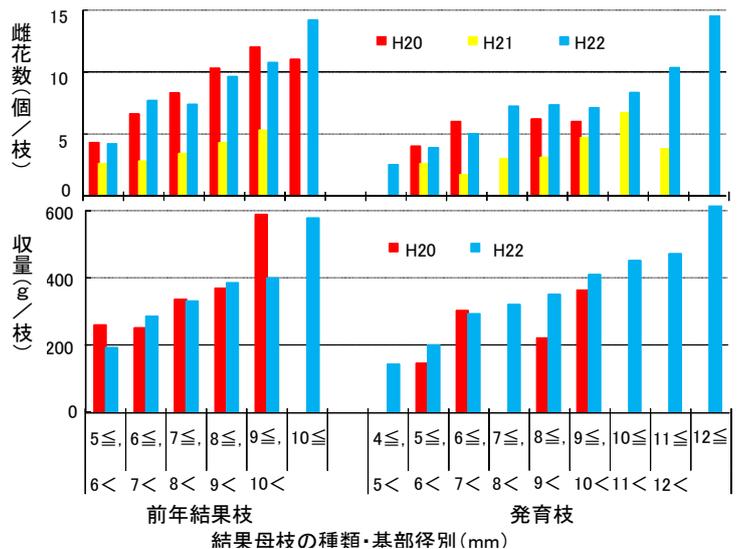
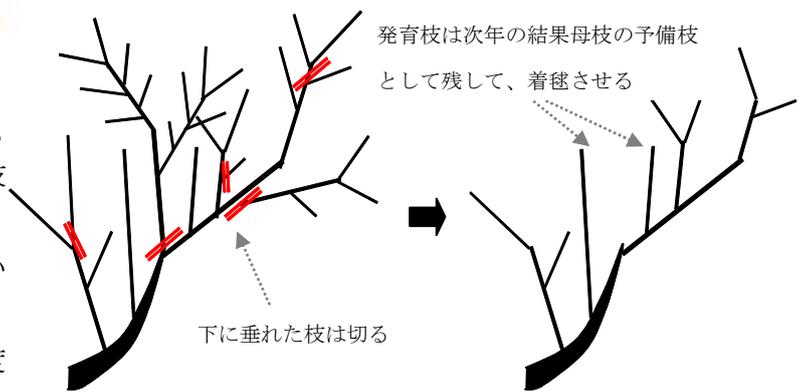


図2 結果母枝の種類および基部径別の雌花数・収量

実際のせん定での留意点

- ・結果母枝は、先端（4mm以上）から基部（7mm以上）までずんぐりした枝を選びます。
- ・結果母枝は、前年結果枝を70%程度、発育枝を30%程度の割合で配置します。
- ・発育枝のうち、先端部径が4mm程度ある太い枝を中心に残し、予備枝とします。
- ・結果母枝数は、樹冠面積1㎡当たり6本程度にします。



<問い合わせ先；園芸研究所果樹研究室 Tel 0299 (45) 8340>